

令和6年度 江戸川区立南篠崎小学校 学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>よく考え 進んで学ぶ子ども</li> <li>心身ともに たくましい子ども</li> <li>明るく 思いやりのある子ども</li> <li>きまりを守り 責任を果たす子ども</li> </ul>	目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	<ul style="list-style-type: none"> <li>笑顔いっぱい、友達いっぱい、夢いっぱいの南篠崎小学校</li> <li>かしこく、やさしく、たくましく、正しく</li> <li>子どもの可能性を見だし、最大限に伸ばす教師</li> </ul>
前年度までの本校の現状	成果 江戸川区教育課題推進実践校として、「子どもの言葉で創る算数授業の実践」に基づき、授業改善に取り組んだ。算数の授業を中心に授業の流れや児童の思考の過程を大切にした指導がどの教員もできるようになってきている。	課題	1年及び6年の2学年で集団生活が成り立たない状況が発生した。心身が不調な教員がいる中、組織的に対応しようと努力をしたが、厳しい状況が継続した。

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」自己（学校）評価（A～D）		「中間」学校関係者評価（A～D）		「年度末」自己（学校）評価（A～D）		「年度末」学校関係者評価（A～D）		次年度に向けた改善案
				9月	2月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力の向上	○算数科の基礎学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>問題解決型の学習を基盤とした授業を日常化する。</li> <li>授業を子どもの言葉で創る。</li> </ul>	授業アンケートで「授業が楽しい」95%。「内容を理解できる」85%。 学力調査やベシックドリル診断シートで85%以上。	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>問題解決型の授業を行っている。</li> <li>授業を子どもの言葉で作っている。</li> <li>数値目標は達成できていないので、今後も子供たち主体の授業を展開し、目標達成に励む。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>関係者アンケートで84%の方がよくわかっていると回答。</li> <li>算数は好きで進んで学習している。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>年間を通して問題解決型の授業を行った。</li> <li>年間を通して授業を子どもの言葉で作った。</li> <li>数値目標を達成できなかった項目もあるので、今後も子供たち主体の授業を展開し、目標達成に励む。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>昨年度の研究で取り組んだことを多くの先生方が意識して算数の授業を行っている。</li> </ul>	学習内容を理解する児童が85%以上になるよう、授業改善や基礎基本の徹底に努める。
	○教師の授業力向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業の改善・資質等に関するファイルの作成</li> <li>週案簿の確認</li> <li>授業観察</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>週1回以上配布</li> <li>毎週月曜日</li> <li>学期に1回以上</li> </ul>	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>ファイルの作成には課題が残る。</li> <li>週案簿は毎週月曜日に確認をし、コメントを記載して返却している。</li> <li>日頃から校内巡視を行い、その際、授業観察もしている。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>担任の先生のことは信頼している。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>ファイルの作成には課題が残った。</li> <li>週案簿は年間を通して毎週月曜日に確認をし、コメントを記載して返却した。</li> <li>年間を通して校内巡視を行い、その際、授業観察も行った。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校公開などの時に参観すると、若い先生方が多い中、一生懸命に授業を行っている様子がわかる。</li> </ul>	空き時間等を利用して学年間で見合う時間を設ける。管理職や主幹による授業観察を行い指導助言を行う。
	○読書科の更なる充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>問題を発見し、読書を通して集めた情報を整理・分析して解決するとともに自らの考えをまとめ・表現する学習</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学期に1回以上</li> <li>アンケートで「読書を通じた学びの価値に気づく」80%以上</li> </ul>	C	C	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>取組内容に記載したことを発達段階に応じて実践するには教員側の準備に課題が残るところがある。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>本をすすんで読んでいる。</li> <li>本好きの子どもを育ててほしい。</li> </ul>	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝読書等は行えたが、取組内容に記載したことを発達段階に応じて実践するには教員側の準備に課題が残るところがあった。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き、本好きの子どもたちを育ててほしい。</li> </ul>	年度当初に読書科のねらい等を全教職員で確認してから指導に当たる。
体力の向上	○健康な生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>保健日より週目標を基にした指導で児童自らが健康な生活を意識した行動をとれるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>たよりや月1回</li> <li>週目標は週1回</li> <li>保護者アンケートで「行動できている」80%以上</li> </ul>	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>ほけんだよりを毎月発行し、健康に過ごすための呼びかけ等を行っている。</li> <li>週目標を全校朝会で伝えたり、掲示したり、学級で確認したりして、常に意識している。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>関係者アンケートでは92%の方ができていると回答。</li> <li>楽しく健康に学校に通っている。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>ほけんだよりを毎月発行し、健康に過ごすための呼びかけ等を行った。</li> <li>週目標を全校朝会で伝えたり、掲示したり、学級で確認したりして、常に意識できた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>関係者アンケートでは90%の方ができていると回答。</li> <li>高学年になるにつれて、健康面にも意識できている。</li> </ul>	今年度行ってきた実践を来年度以降も引き続き継続して行う。
	○基礎体力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎日体を動かす</li> <li>体育集会やなわとびウィークを通じて日常的に体を動かす習慣をつける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1日1回以上</li> <li>集会は月に1回</li> </ul>	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>熱中症対策で外遊びできない日もあるが、それ以外の日は体を動かす習慣がある。</li> <li>なわとびウィーク等を全校で取り組み、体を動かす習慣がついている。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>関係者アンケートで78%の方が進んで体を動かしていると回答。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>雨の日等で外遊びできない日以外は体を動かす習慣が全学年あった。</li> <li>なわとびウィーク等を全校で取り組み、体を動かす習慣が身に付いた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>関係者アンケートでは90%の方が進んで体を動かしていると回答。</li> <li>短なわの取り組みもよい。</li> </ul>	今年度行ってきた実践を来年度以降も引き続き継続して行う。
共生社会の実現に向けた教育の推進	○学校2020レガシーの継続	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本文化・伝統芸能の体験、外国文化に触れる学習を継続させる。</li> </ul>	児童アンケートで「学校が楽しい」90%以上	C	A	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>後期に体験や触れる機会を予定している。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>楽しく元気に学校に通えている。</li> </ul>	B	高学年を中心とした三味線教室やイングリッシュキャラバンなどを通して、前期よりも取組内容に記載したことを実践できた。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校公開の時に子供たちの様子を見ると、楽しく元気に学校に通えている様子がわかる。</li> </ul>	外国文化に関してはALTとも連携して、計画的に実践する。
	○エンカレッジルームの活用推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>エンカレッジルーム対応を各教員で分担し、学校組織全体で支援体制を整える。</li> </ul>	分担は毎時間実施、情報共有は適宜。	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>全時間、分担や支援方法を全教員で共通理解・共通実践している。</li> <li>情報共有のためのノートを作成している。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人一人の子どものために活用しているのは望ましい。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>全時間、分担や支援方法を全教員で共通理解・共通実践できた。</li> <li>情報共有のためのノートを作成し、共通理解等が深まった。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人一人の子どものために活用しているのは良い。</li> </ul>	今年度行ってきた実践を来年度以降も引き続き継続して行う。
不登校・いじめ対策	○いじめ防止	<ul style="list-style-type: none"> <li>早期発見のためのアンケート及び担任等による相談体制を取る。</li> </ul>	訴えがあった場合は組織的に対応し1か月以内に100%解決する。	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>アンケートを実施し、気になる児童には担任等が相談を行った。</li> <li>訴え等があった時は組織的に対応している。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>何かあった時は子供は相談できているようだと言った方が回答。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>アンケートを実施し、気になる児童には担任等が相談を行った。</li> <li>訴え等があった時は組織的に対応した。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>問題発生に対し、人的対応など迅速に対策検討されている様子が伺える。</li> <li>いじめが気になって世の中全体がそうだからなかなか変わらない。</li> </ul>	子どもの小さな変化にも見逃さないよう、日頃から一人一人をよく見ていく。
	○不登校未然防止	<ul style="list-style-type: none"> <li>全教職員での情報共有。</li> <li>電話連絡、家庭訪問、ICT活用。</li> <li>SCやSSWとの連携。</li> </ul>	学校とのつながりがない児童をゼロにする。	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>気になる児童がいる時は複数対応であたっているため学校とのつながりがない児童がゼロである。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>心配事がある方で、学校に相談したら解決したという方が76%。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>気になる児童がいる時は複数対応であたったので学校とのつながりがない児童がゼロだった。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>不登校になる原因は様々。家庭と連携すること、家庭が協力的であることが大切。</li> </ul>	登校しづりが原因で欠席した際は1日目から動く。

